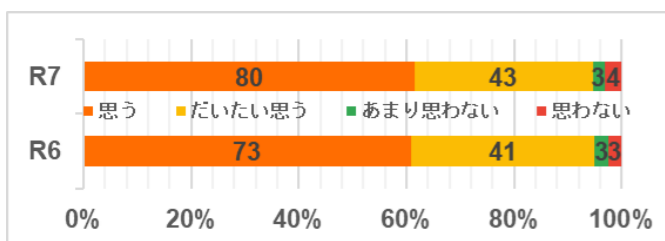


# 保護者・児童アンケートまとめ

## <保護者アンケート>

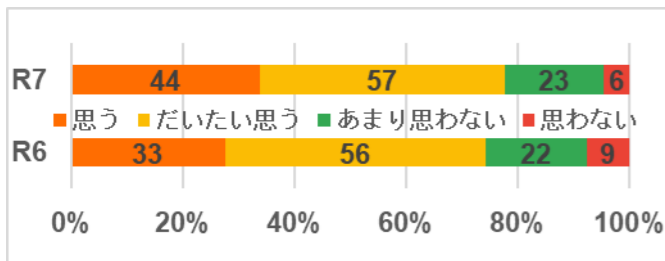


### 1 お子さんは、楽しく学校に通っている。



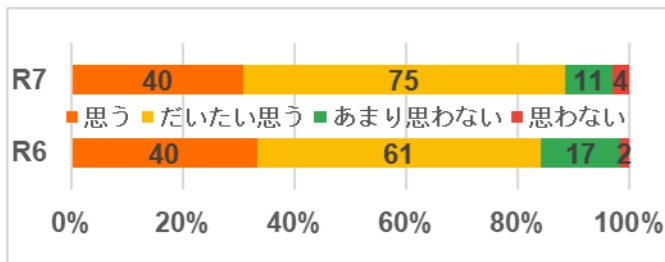
	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	80人	43人	3人	4人
R. 6	73人	41人	3人	3人

### 2 お子さんは、家庭学習をする習慣が身に付いている。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	44人	57人	23人	6人
R. 6	33人	56人	22人	9人

### 3 お子さんは、授業を分かりやすいと感じている。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	40人	75人	11人	4人
R. 6	40人	61人	17人	2人

### 1 分析と考察

・昨年度とほぼ同じ割合となっています。昨年度から今年と、A・Bの割合が、95%になっています。

### 2 今後に向けての改善策

- C・Dの人数が本年度7人いる事実と、例年0にならないことから、
- ・「なかよしアンケート」などの結果をもとに児童と個別懇談を丁寧に行い、日々、個々の子どもたちの悩みに寄り添っていきます。
- ・学習活動においても子ども同士のつながりをつくる学習形態、学習支援を追究し実践していきます。
- ・QUテスト(学校生活への不適応、不登校、いじめ被害の可能性の高い子どもの早期発見心理テスト) 学校評価アンケートを活用し、家庭とのコミュニケーションの取り方、児童の思いを探っていきます。
- ・担任一人ではなく、全職員で全児童をみる体制作りを進めていきます。

### 1 分析と考察

・8割近いご家庭が、子どもの家庭学習が身に付いているとみています。また児童のアンケート(質問6 宿題を家の人に言われなくても自分でできていますか)を見ると、9割近い児童が言われずに自分でできていると回答し、保護者と児童の意識がほぼ一致しているようです。

### 2 今後に向けての改善策

- ・低学年では、家庭学習の習慣化を目指し、高学年では、なんのために家庭学習をするのか、宿題に対する児童の意識の意識の改革・定着を目指していきます。家庭学習の意義をもう一度確認していきます。
- ・家庭学習の量の増減を求める声がありました。各クラス児童の実態に応じて、判断していくようにしていきます。

### 1 分析と考察

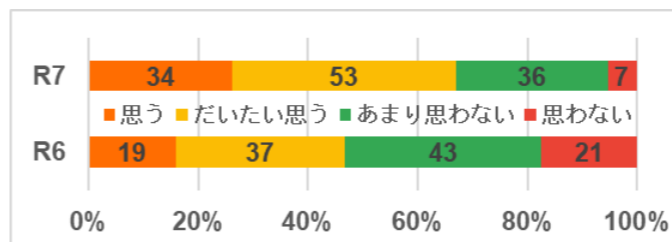
・授業受けている児童はAが95人、C・Dが合わせて9人になっています。一方保護者はAが40人(子どもとの差55人)、C・Dが合わせて15人(子どもとの差6人)となっています。授業=教科学力に限定された認識があると思われます。子どもたちは自身の中で「できた」「分かった」に喜びや価値を見出しています。「授業は何を学ぶためのものか」を、子ども、保護者、教員で共通認識を持つことが必要と考えます。

・昨年度の今後に向けた改善策で紹介したように、授業で機械的に解けるやさしい問題に加え「考える力・事実や考えをつなげる力」をつける課題に取り組んできたことで、子どもが悩む(深く考える)姿が見えるようになったことも原因の一つと考えられます。

### 2 今後に向けての改善策

- ・教科学力と子どもの自尊心を育む「できた」「分かった」の両立に努めていきます。
- ・今後も現代教育で目標とされている「考える力」を育む取り組みをします。「答えがあっているだけでない」解決する力」を、子どもたちに提供できる授業を探っていきます。

### 4 お子さんは、学校や自宅でタブレットを使って「写真を撮る・調べる・ドリル学習をする」など学習に活用している。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	34人	53人	36人	7人
R. 6	19人	37人	43人	21人

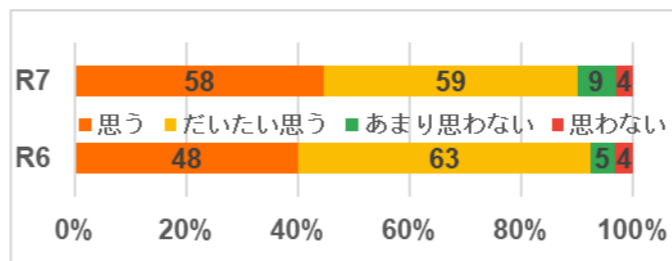
### 1 分析と考察

- ・A,Bの割合が昨年度に比べて20%高くなっています。アンケート回答期間中、タブレットの入れ替えのため、全学年家庭へタブレットを持ち帰り、実際に児童がタブレットに触れている姿を見たためと思われます。
- ・児童の結果では、A,Bの割合が約95%となっています。
- ・タブレット技能向上が教育現場で目的にされていないため、児童が職業利用としてのタブレット技能を身に付けていないことが考えられます。

### 2 今後に向けての改善策

- ・児童の回答から、今後も目的に沿ってタブレットを活用していきます。
- ・文部科学省から出されたICT活用の目的は「児童生徒によるICT活用の多くは情報活用能力の育成を目的としたもの」となっています。学習内容を理解するうえで、タブレットが有効かそれとも利用しない方がよいのかを判断して活用していきます。

### 5 お子さんは、クラスの中で安心して生活している。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	58人	59人	9人	4人
R. 6	48人	63人	5人	4人

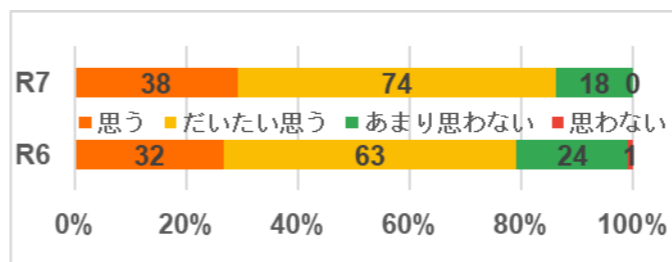
### 1 分析と考察

- ・A,B合わせて約90%となっています。ただしC,Dに13家庭の回答が見られます。児童アンケート【1】でも9人の児童が安心してできると思わないと回答しています。9家庭の保護者の方、お子さんは、不安を抱きながら登校していると思われます。あらためて一人一人の児童に寄り添う取り組みを大事にしていく必要があります。

### 2 今後に向けての改善策

- ・「なかよしアンケート」「QUテスト」から児童との懇談を継続します。
- ・子どもと子ども、子どもと職員(全員)との広い心のつながりを重視した取り組み(延徳ガラポン・全校道徳・縦割り班活動など)を続け、子どもが孤独感、孤立感を抱かない学級経営・学校経営を進めます。
- ・対面での対話はもちろん、学級通信など、様々な方法を通じて、保護者とのコミュニケーションを大切にしていきます。

### 6 お子さんは、元気にあいさつしている。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	38人	74人	18人	0人
R. 6	32人	63人	24人	1人

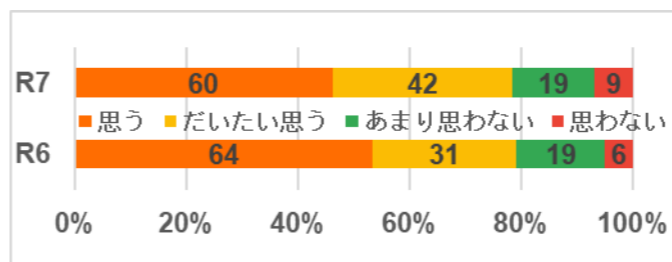
### 1 分析と考察

- ・A・Bを保護者と児童のアンケートで比べてみると、9%児童が高くなっています。そこから、児童が地域であいさつができにくい傾向であると思われる。

### 2 今後に向けての改善策

- ・教科、生活の多くの時間で、自分を振り返る機会をもち、自分を見つめる力を育みます。
- ・つながり合う心地よさを知るために、学校職員自らあいさつを心がけたり、各学年の取り組みや児童会活動のあいさつ運動を推進したりして、人とつながって生きることの日常化を図ります。

### 7 お子さんは、継続的に体を動かす活動に取り組んでいる。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	60人	42人	19人	9人
R. 6	64人	31人	19人	6人

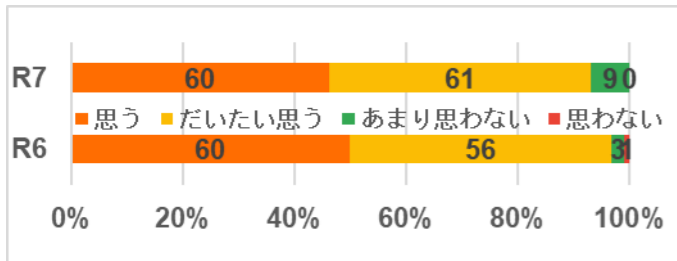
### 1 分析と考察

- ・一昨年度、大きくC・Dに割合が減り、本年度も昨年度と同様な結果が継続されています。本年度も、全校運動を体力アップタイムとし、様々な運動を楽しめるようになったことが一つの原因と思われます。一方で、普段体を動かす児童と動かない児童の差は、大きくなったと感じられます。

### 2 今後に向けての改善策

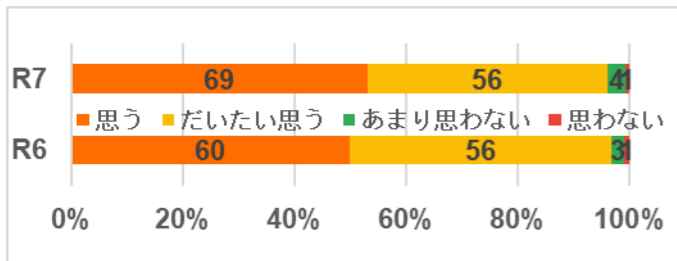
- ・体育集会を体力アップタイムに変え、持久系、瞬発系、技能系など、様々な運動を経験できるシステムで、様々な運動経験を積み重ねます。
- ・マラソン大会など、継続して取り組める活動を、教育活動に位置付け、子どもたちの運動する機会を確保していきます。

8 学校は、地域の方と交流したり、連携したりして学校づくりを進めている。



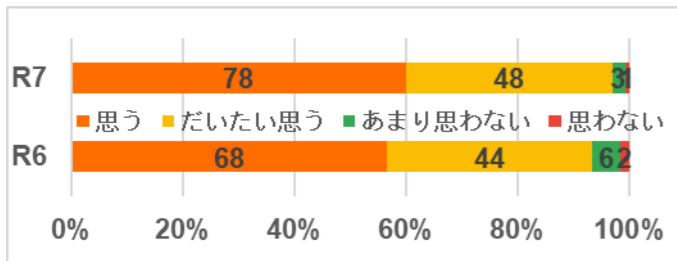
	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	60人	61人	9人	0人
R. 6	60人	56人	3人	1人

9 学校は、お子さんが安全に過ごせるためのはたらきかけをしている。



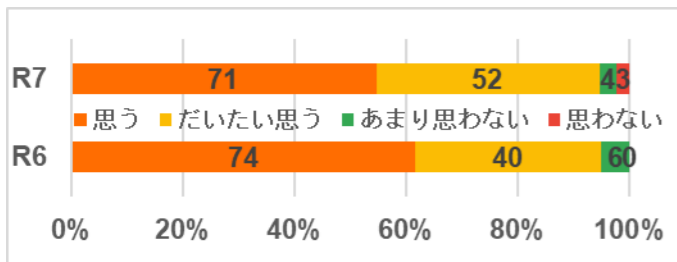
	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	69人	56人	4人	1人
R. 6	60人	56人	3人	1人

10 学校職員は、お子さんとよく話したり、必要な時に保護者と連絡をとったりしている。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	78人	48人	3人	1人
R. 6	68人	44人	6人	2人

11 参観日や行事、学級通信や学校便り、ホームページを通して学校での子どもたちの様子がよくわかる。



	【A】 思う	【B】 だいたい思う	【C】 あまり思わない	【D】 思わない
R. 7	71人	52人	4人	3人
R. 6	74人	40人	6人	0人

1 分析と考察

・【設問10】のA・Bは126人、【設問11】C・Dは7%と同設問を比較すると、A・Bが-5人、C・Dが+2人となっています。さらにC・Dにおいては、昨年比で+5人となっています。郊外への情報発信や子どもの学級での生活よりも、学校全体の地域とのつながりに課題を感じていることがうかがえます。

2 今後に向けての改善策

・小規模校のため、保護者、地域の皆さんのご協力がなければ、子どもたちに十分な教育を提供できません。今回のアンケートも含め、保護者の反応に対して、きちんとした回答・対話を行っていきます。  
・学校教育活動の変化について、丁寧な相談と説明・報告を心掛けていきます。決まったことは、見える形で発信し、また責任を持って実行していきます。

1 分析と考察

・近年C・Dの割合が少ない傾向が見られます。Tetoruの導入で、安全に関する情報が、素早く的確に家庭に伝わる機会が増えたことが原因の一つと考えます。また、感染症対策も定着し、子どもたちが自ら手洗いやうがいなど実践できるようになってきたことが、結果につながっていると思われます。

2 今後に向けての改善策

・年度当初の交通安全教室に加え、郊外指導部や安協の皆様にもご協力いただきながら、年間通しての交通安全指導を継続していきます。  
・養護教諭を中心に、感染症対策は、週間などを設けて、継続して行っていきます。

1 分析と考察

・Aの割合が増えています。C・Dも3%で、昨年比-4%となっています。全職員が全児童の先生という意識で教育活動に取り組み2年目。取り組み（縦割り活動、延徳ガラポンなど）が、少しずつ実生活や気持ちの変化につながっているようです。

2 今後に向けての改善策

・担任だけでなく、多くの職員が、児童に接する機会をより増やし、児童のストレスを発散できる場所が増やしていきます。  
・職員は、必要である場合は、時間を置かず懇談していくことを継続していきます。また、学校と家庭の情報共有を意識して、継続して指導や支援をしていきたいと考えます。

1 分析と考察

・A・Bの割合が95%を超えています。学校におけるお子さんの様子を、実感していただいていることがうかがえます。一方で昨年よりもDの割合が増えました。アンケートのコメントからも、コミュニケーション不足が、学校理解不足につながっていると思われます。

2 今後に向けての改善策

・本年度の活動を継続しつつ、より各活動内容を保護者、地域とのコミュニケーションに視点をおいて改善してまいります。

<R. 7 児童アンケート>

	思う	だいたい思う	あまり思わない	思わない (人)
1 学校は楽しく安心できる場所になっていますか。	92	28	6	3
2 授業は分かりやすいですか。	95	25	7	2
3 授業中、先生や友だちの話をしっかり聞くことができますか。	82	42	4	1
4 授業中、自分の考えを友だちに話したり発表したりできていますか。	52	51	25	1
5 タブレットで「写真を撮る・調べる・ドリル学習をする」など、学習で使っていますか。	95	27	5	2
6 宿題を家の人に言われなくても自分でできていますか。	76	37	13	3
7 本を読む習慣がついていますか。	48	43	20	18
8 学校のきまりやルールを守っていますか。	71	50	6	2
9 先生方は学習や生活、悩み事について、きちんと相談にのってくれますか。	83	38	6	2
10 誰とでも仲よくしようと心がけていますか。	97	25	4	3
11 相手の気持ちを考えて友だちと話していますか。	78	47	1	3
12 友だちと楽しく歌っていますか。	98	16	9	6
13 学校の先生や友だち、来校者、また地域の人などに自分からあいさつができていますか。	80	42	6	1
14 自分にもいいところがあると思いますか。	68	39	16	6
15 だまって時間いっぱい、すみずみまでそうじをしていますか。	78	43	6	2
16 児童会や係の仕事を、責任を持って取り組んでいますか。	89	35	4	1
17 自分から進んで体を動かすことを続けていますか。	84	30	14	1

考察と今後の取り組み

【全体】

17個の質問中11個（質問1、2、3、5、8、9、10、11、13、15、16）は、いずれもA・B合わせて90%台を示していることから、安心して学校生活を送っている児童が多いようです。現行の教育活動を継続・改善しながら、よりよい学校運営を目指していきます。

【質問1に関して】

児童の90%以上が学校を楽しんでいることから、学校が子どもたちにとって安心できる場所になりつつあることが分かります。ただし、C・Dを選択した児童が9名います。延徳小学校は、一人一人の居場所がある学校を目指しています。9名の児童にとって安心できる場所とはどのような場所（学校）かを、職員全員で考え、全職員で対応していきたいと考えています。

【質問4・質問12・質問14に関して】

他項目に比べると、C・Dの割合が多くなっています。延徳小学校の傾向として、自主性、表現力、自尊心の低さがあげられます。日本の全体の傾向と似ていますが、改善の必要性を感じます。①授業における友とのコミュニケーション不足が、児童の実感としても存在すること②誰かにやってもらえばいいや。時間が経てば終わるだろうという人任せの部分があること。③自分に自信が持てていないこと。しかも①②③とも、自分自身が自覚しています。少し根の深い課題であると思われます。表現できる安心した環境を増やし、表現力・表現意欲を育てていきます。全児童が、自己肯定感を高める環境や支援を、学校全体で取り組んでいきたいと思います。

【質問9に関して】

「先生方は学習や生活、悩み事について、きちんと相談にのってくれますか」でA・Bを選択した児童が94%となっています。また、C、Dを選んだ児童が8人と昨年度に比べ7名減っています。全体的には、改善の傾向が見られます。しかし、8名の児童が、職員に相談しにくいという思いを持って生活しています。この思いが、児童の孤立感を深める要因にならないように、より一層児童とのコミュニケーションをとる必要を感じます。また、現在学校全体で取り組んでいる全職員が全児童の先生というスタンスでの学校教育活動（縦割り活動、延徳ガラポン、体力アップタイムなど）を、充実継続していきます。1人の担任だけでなく、8名の児童を含め、多くの児童が全職員に心を開いていけるように、引き続き学校全体で全ての児童を見ていく活動を継続したり、アンケートをもとに懇談したりする中で、SOSを捉え対応していきます。